



広島県版

NO358

発行者

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都文京区

湯島 2-4-4 平和と労働会館

電話 03-5842-6461

広島県本部

〒732-0052 広島市東区光

町 2-9-24 ロードビル 202

電話 082-263-64990

## 松井広島市長の職員への「教育勅語」引用研修を許すな

戦前、教育勅語は軍国主義と天皇主権を国民に植えつけ、治安維持法など弾圧法制による専制支配によって国民を戦争に動員しました。

松井市長は、市民をはじめ大きな世論の批判があるにもかかわらず、今後も引用する態度を表明しています。

朝日新聞の“耕論”でも教育勅語が「中身はいいと考えるのは無知に他ならない」「戦前の教育への揺り戻しがじわじわと進んでいる。中身はいいとつまみ食いする政治家にバカヤロウと言いたい」、また広島県被団協理事長佐久間さんは「天皇のための戦争に国民を動員するのが目的。その侵略戦争の結果、起きたのが広島・長崎の原爆投下」と厳しく指摘しています。

呉市の日本製鉄跡地を多機能軍事拠点にする軍都呉への復活を許さない闘いとあわせて、戦争する国づくりをストップさせなければなりません。

## 国賠同盟第41回全国大会成功をめざす

### 署名・会員拡大目標達成特別期間に全力をあげよう

5月15日に国会請願行動が行われます。全国から署名を結集し全ての国会議員に治安維持法犠牲者に国家賠償法制定を求める請願要請を行います。

広島県本部の署名目標3000筆、現在30%を超えました。残り期間1か月です。署名目標達成に全力をあげて取り組みましょう。

6月19～20日、国賠同盟第41回全国大会が開催されます。

同盟中央は4月1日～6月30日までの3か月間、「署名・会員拡大目標達成特別期間」を設定しました。広島県本部は昨年の大会時167名の会員を維持していますが、早急に同盟創立50周年に達成した187名を回復し200名をめざして3か月間会員拡大に集中し新会員を迎えましょう。

わたしたちの運動の基本  
 ふたたび戦争と暗黒政治許さないために  
 一、治安維持法体制の復活に反対する  
 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する憲法であつたことを認めること  
 三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと



# 第18回広島 多喜二祭に60名参加

とき 2024年3月20日(祝)  
 会場 広島ロードビル(旧国労会館)  
 内容 映画「山宣 武器なき斗い」  
 講演 是恒高志(歴史教育者協議会会員)  
 「日中戦争序説とプロレタリア文学」  
 聳ゆるマスト・阪口喜一郎にもふれながら



講師 是恒 高志

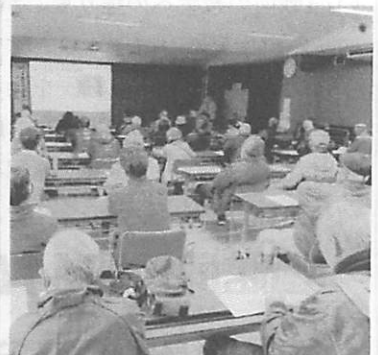
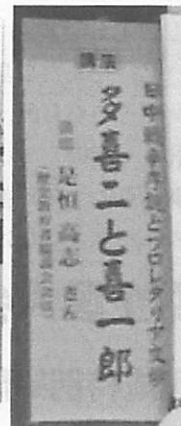
広島多喜二祭は、2020年「全国9条の会」事務局長の小森陽一さんの講演「多喜二と夏目漱石」(DVD)を計画しましたが、コロナによって中止を余儀なくされました。

2022年には「時代の証言者 伊藤千代子」の作者藤田廣登さんの講演「伊藤千代子」をDVDで上映し、映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」の上映制作募金を訴えました。4年目にして「広島・多喜二祭」を広く呼びかけ、「つどい」を開くことができました。

今、自民党政権によって、「戦争する国づくり」が急速に進められています。

身近な広島の地で、原爆によって2度とヒロシマの悲劇を繰り返してはならない立場の松井広島市長が軍国主義と天皇主権を国民にうえつけ侵略戦争に国民を動員した「教育勅語」を持ち出し職員研修を行い、世論の批判に反省するどころか、これからも続けるといっています。

又、呉の日本製鉄跡地を複合防衛拠点とし、軍都呉への復活の危険な動きが強まっています。法制面でも戦前の治安維持法が復活し、実践面でも戦争準備が急速に進められています。



「広島・多喜二祭」での、是恒先生(国賠同盟県本部会員)の講演は、多喜二が生きた時代と多喜二の作品を紹介しながら、「なぜ働く者が貧しいのか、軍隊、家父長制、天皇制」の社会を描いたプロレタリア文学が当時の呉海軍工廠内で影響をあたえ、阪口喜一郎などによって発行した新聞「聳ゆるマスト」が戦争抑止の力、戦争に反対していく力になっていったことがリアルに語られました。

映画「山宣 武器なき斗い」は、治安維持法の死刑法への改悪に反対し命を懸けて闘う生涯は、「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」とともに反戦・平和運動に大きく寄与するものとなりました。

## 広島・多喜二祭のとくみ経過

広島県本部がこれまで「広島・多喜二祭」に取り組んだ経過の報告です

- ★多喜二を偲んで 没後50年 1983年2月20日 ・ところ ?  
 内容 講演「小林多喜二と彼が生きた時代・・彼が今我々に語りかけてくるもの」  
 講師 天道正人(日本共産党府中町会議員)
- ★第1回 広島・多喜二 (生誕100年・没後70年記念) 46名参加  
 2003年 2月23日 ・ところ 国労会館  
 内容 講演「治安維持法と現代の課題」  
 講師 村中好穂(われらの詩の会会員、広島合唱団指揮者)
- ★第2回 広島・多喜二祭 2004年2月21日 ・ところ ロードビル  
 内容 講演「侵略戦争へ国民をかりたてた暗黒の時代を語る」  
 講師 田熊真澄(山口県光市大和町・治安維持法犠牲者)  
 ビデオ映画 「治安維持法と多喜二」
- ★第3回 広島・多喜二祭 2005年2月26日 ・ところ 生涯学習センター  
 内容 講演「多喜二の時代と現代」 講師 村中好穂(民主文学会員)  
 「世界の希望の旗 憲法9条」 講師 林 紀子(元参議院議員)  
 ビデオ映画「燃やし続けた炎」
- ★第4回 広島・多喜二祭 3日間開催  
 2006年3月10日11日17日 ・ところアステールプラザ・南区民センター  
 内容 記録映画「時代を撃て 多喜二」
- ★第5回 広島・多喜二祭 16名参加 2007年2月24日 ・ところ 府中町  
 内容 記録映画「時代を撃て 多喜二」
- ★第6回 広島・多喜二祭 60名参加 2008年3月9日 ・ところ市社会福祉センター  
 内容 講演 「現代の視点から多喜二を読む」  
 講師 村中 好穂(広島県民主主義文学会会員 ヒロシマ文学を読む会講師)  
 朗読劇 「母べえ」 ビデオ上映
- ★第7回 広島・多喜二祭 130名参加 2009年 2月21日 ・ところ ?  
 内容 映画「蟹工船」  
 講演「聳えるマスト」の人たち 講師 小栗 勉(民主文学会員 作家)
- ★第8回 広島・多喜二祭 2日間開催 延べ130人参加  
 2010年 2月 4日 ・ところ 広島市西区民センター 50名参加  
 2月13日 ・ところ アステールプラザ 80名参加  
 内容 映画 「鶴彬」
- ★第9回 広島・多喜二祭 2011年 月 日 ・ところ 広島市西区民センター  
 内容 映画「弁護士・布施辰治」
- ★第10回 広島・多喜二祭 2012年2月25日 ・ところ 広島市南区民センター  
 内容 映画「山宣・武器なき斗い」
- ★第11回 広島・多喜二祭 (生誕110年・没後80年記念 80名参加)  
 2013年 2月14日 ・ところ 広島市南区民センター  
 内容 講演 中本康雄(元広島市会議員・元福島病院院長)  
 山田慶昭(弁護士・国賠同盟県本部委員長)  
 記録映画 「民医連とともに 桑原英武」
- ★第12回 広島・多喜二祭 90名参加  
 2014年3月2日 ・ところ 市南区文化センター  
 内容 講演「多喜二の文学作品から・治安維持法と特定秘密保護法を考える」  
 講師 尾西康充(三重大学教授) ビデオ映画「燃やし続けた炎」

- ★第13回 広島・多喜二祭 2016年 2月20日 ・ところ 中特会館  
 内容 講演「特定秘密保護法・立法を狙っている共謀罪」  
 講師 山田慶昭(県本部会長・弁護士)  
 記録映画「時代を撃て 多喜二」
- ★第14回 広島・多喜二祭 50名参加 2017年2月19日 ・ところ 鞆町集会所  
 内容 講演「昭和のはじめにもどさぬ・・・93歳の訴え」  
 講師 楠 忠之(元県議・原爆遺跡保存懇代表委員)
- ★第15回 広島・多喜二祭 40名参加 2018年3月18日(日) ・ところ 中特会館  
 内容 講演「治安維持法と憲法」 講師 大平喜信(前衆議院議員)
- ★第16回 広島・多喜二祭 20名参加  
 2019年5月11日 ・ところ 鞆町「ユーストピア中央」  
 内容 DVD「いのちの記憶」・・・小林多喜二 29年の人生・・・
- ★2020年 広島 多喜二祭 コロナ禍で中止 (講演小森陽一「多喜二と漱石」予定)
- ★2021年 広島 多喜二祭 コロナ禍で中止
- ★第17回 広島・多喜二祭 11名 2022年3月19日 ・ところ ユーストピア中央  
 内容 DVD 藤田廣登氏学習講演会 「伊藤千代子」  
 映画「わが青春つきるともー伊藤千代子」上映製作募金69,000円集る
- ★2023年 広島 多喜二祭 中止
- ★第18回 広島・多喜二祭 60名参加 2024年3月20日 ・ところ ロードビル  
 内容 講演 「日中戦争序説とプロレタリア文学・・・多喜二と喜一郎・・・」  
 講師 是恒高志(歴史教育者協議会会員)  
 映画 「山宣・武器なき斗い」上映

## 【治安維持法犠牲者 広島版「闘いの群像」】

### ・・・治安維持法第2次弾圧 全協いっせい検挙5・4事件・・・

1931年5月4日、広島市内の全協関係者百数十人がいっせいに検挙され、起訴された者は市川 忍、五條俊夫、小笠原 豊、胡川 清の4名、他の検挙者は起訴猶予。胡川 清については、不屈広島県版337号(2022・7・15発行)で紹介。

**市川 忍** 広島市東区牛田出身。広島郵便局通信書記。1931年3月9日全協広島地方支部協議会結成議長。1931年3月、赤色救済会を設立、広島県委員長。1931年5月4日、全協いっせい検挙、公判に入る前の被告人会議を要求してゆずらず傍聴なしの裁判で4年の実刑。1932年2月衆議院選挙に党・同盟・全協の3団体連絡により関係機関に届けず獄中から立候補し選挙を闘う。獄中の虐待で発病。1946年4月22日死亡。享年41才。

**小笠原 豊** 1930年10月、広島合同労組に加入。その後、全協繊維労働組合広島支部責任者。1931年5月4日全協いっせい検挙で捕まる。予審中広島刑務所で結核を発病、1934年4月保釈、6月29日死去。獄中でのテロと拷問の犠牲者。

**五條俊夫** 広島市白島出身。県立広島工業高校中退。広島合同労働組合内革命的反対派に参加。1930年10月前後して全協広島地方協議会結成にむけ準備会書記局を担当。1931年3月全協広島地方支部協議会結成事務局員。1931年2月全協交通運輸労組支部責任者となる。1931年5月4日全協いっせい検挙事件で検挙、3年の実刑。出獄後1939年2月工場で事故死。